

平和を希求する心を育てる取組

報告年月日：2020年1月30日

都市名・国：サン・クガ・デル・ヴァレス  
スペイン（カタルーニャ州）

取組の名称	サン・クガにおける平和と非暴力のためのスクールデー
実施主体 (該当項目に✓)	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input checked="" type="checkbox"/> 複合（地方自治体、NGO[国際平和大学／International University for Peace]）
テーマ・目的	毎年変更： 2020年：「フィーリング・グッド」（反軍国主義） 2019年：「私たちは種」（先住民民族コミュニティの闘争） 2018年：「壁」（国境） 2017年：「人々」（難民危機） 2016年：「生きる」（被爆者） 2015年：「私たちは地図の一部」（ネルソン・マンデラと和解） 2014年：「ステップ・バイ・ステップ」（ガンジーと非暴力）
対象者 (年齢・学年、人数等)	直接的な参加者：2014年以降、ワークショップに出席した子どもたち（9～10歳）1,400名 間接的な参加者：大人4,000名（インスタレーションを鑑賞した保護者および市民）
実施場所	サン・クガ・デル・ヴァレス、カタルーニャ州
実施期間	本取組は2014年以降、毎年11月から翌1月30日まで開催されている。
<p>取組の概要</p> <p>目標： 本活動の具体的な目標は、年ごとに選ばれたテーマに応じて変わるが一般的には活動終了時に参加した生徒が以下のことができるようになることを目的としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 自分たちが非暴力と平和文化に触れていることを認識する</li> <li>- 自分たちの現実とは異なる現実を認識する</li> <li>- 非暴力及び平和文化の理念と影響力を分析する</li> <li>- 学んだテーマを芸術的手法で表現した作品を制作する</li> </ul> <p>手法： 本活動は、創造的かつ体験的教育過程の一環として、芸術表現を通じた平和文化と非暴力の重要な観点を学ぶことを目指すものである。特定のテーマまたは非暴力闘争に関連する人物（これらは毎年変更）に基づいてカリキュラムが組まれている。 主に生徒による参加型・気づき学習を土台とし、すべてにおいてテーマの概要と具体的な事例を解説する指導者のサポートを行う。教室では、参加型の社会感情的かつ体験を重視するダイナミクスを用い、複雑な現実を生徒たちに身近なものにすることを目的とする。 活動は1時間半の3回のセッションからなり、各学年の最初の学期に学校で実施する。1回目のセッションはNGO国際平和大学のエドゥケーター、残る2回は芸術系のエドゥケーターが進行役を務める。 1回目のセッションではテーマを紹介する。次の2回のセッションでは、生徒たちは引き続き、芸術表現と造形作品の制作を通じて課題に取り組む。授業の成果として、全参加校の生徒による作品を集めた芸術的なインスタレーションを準備する。インスタレーションは1月30日に最も近い日曜日に公共の場で一般向けに展示される。平和と非暴力のためのスクールデーの後1カ月間、公共図書館でも展示される。</p>	

### 参加者の反応

生徒：自分たちの現実にあてはめて複雑なテーマを理解することで、提案されたアクティビティに肯定的な反応が見られた。提案されたワークショップへの参加に意欲的に取り組み、平和と非暴力の活動について積極的に学ぼうとした。

教師：用いられた手法は適切であり、生徒たちの意欲を刺激すると考えている。この3回のセッションにより、体験型の学習アプローチで平和と非暴力の課題に更に深く取り組むことが可能となった。

### 成果

生徒たちは個人の言動と姿勢が平和構築への第1歩であることを学んだ  
インスタレーションによる作品群の見学を通じて家族が参加したことで課題への意識を刺激した  
街ぐるみの共同都市プロジェクト  
グローバルな運動の一環としての地域プロジェクト

### 課題

参加校を増やすこと

学校のプロジェクトとして、各校の予算の割り当てを増額すること

### 取組で使用した素材について

インタレーション作品に応じて毎年、美術材料を使用

### 上記素材の共有の可否

掲載可能（素材を添付してください）

掲載不可

不明

- 1\_学校での活動
- 2\_2016年「生きる」のアート
- 3\_2014年「ステップ・バイ・ステップ」のアート



